ISSN 2435 -5879

地域と社会

No. 15 2024・6

目　次

史跡をめぐる公共性に関する研究
―昭和期から平成期の山梨県史跡勝山城跡の利用を手掛かりに―
森屋　雅幸（1）

＜紹介＞
深澤竜人『近代山梨県経済の研究Ⅰ【明治期編】』
　同　　『近代山梨県経済の研究Ⅱ【大正期編】』
佐藤　弘（14）

ない。

またこのような「山梨県経済の基本構造」は、「山梨県経済に限らず…近代日本経済においては、大同小異のことであったとも考えられる」(22頁)のだが、「本書の特徴」は「近代山梨県経済の詳細状況を偏に追究していく」(同)ことにあるとするのである。

Ⅱについては、副題にあるようにⅠの時期に確立した「近代山梨県経済の基本構造」がどのように「変化・変容」するのかを追究することが課題である。「第1章1910年代における山梨県下での農家・農民の変容」では、第一次世界大戦期の好況について検討し、農家経済の影響については、「女工には賃金の上昇と所得の拡大がもたらされ、これによって農家の所得の上昇となり」、他方では「米(または麦・雑穀・野菜)の値段が上がったことから、これらを販売する農家は所得の上昇を得た」として、この時期の特徴を次のように結論づけている。

> 大戦景気はこのような影響を農村・農家に与えたのである。これによって…農家・農村の零細的性格には、この時期大きな変化が出てきたわけで…明治維新以来1910年代前半において農家・農村を貫徹していたその零細的性格は、第一次世界大戦の大戦景気によつて1910年代後半に大きな変化が生じたわけである。ここがまず一つの歴史的変化であって、この後に大きな影響を与えていく重要な歴史的事件であったと本書では捉える(35頁)。

このように第一次世界大戦期を「山梨県経済の基本構造」が「変化・変容」する歴史的画期として位置付けているのである。しかしこの状況は急転する。

> 大戦景気・戦後ブームという特異な現象はあったものの、それが終わった後にはあたかも「祭りの後」のように、上記の基本的構造と特質・特徴(「農村・農民における零細的性格」のこと—引用者)は結局何ら変化していなかった。ばかりでなく、近代山梨県経済の基底的な部門であった農村・農民における零細的性格は、一層進化し、さらに過酷なものになってしまったわけである(230頁)。

この点で「近代山梨県経済の研究」においてⅠとⅡは一貫した立場に立っているということができる。

以上本書の豊富な内容の一端を紹介したに過ぎないが、私の理解力からして、誤った或は不正確なところも多いと思うが、ご海容いただきたい。本書はまた明治、大正期の県下の経済状況の「追究」のみにとどまらず、特にⅡではイデオロギー状況についてもとりあげており、内容は極めて新鮮である。また多用されている新聞記事もそれぞれ興味深い。残念ながら本書(2冊)は、小数部の発行の為、頒布を行っていないが、山梨県立図書館等で閲覧することができる。なお著者は昭和期の追究を今後の課題としているが、続刊を期待したい。

地域と社会　第15号　2024年6月15日　発行
編集・発行　佐藤弘　〒[illegible]　[illegible]
印刷所　㈱佐野印刷